



ランタナ

103 篇は端書きに **ダビデの詩** とあります。ダビデは神に愛と信頼の祈りを捧げ、神の懐に憩うことを喜び、神こそが砦の塔となり、守られました。そして、幾多の苦難から救われ、また自らの罪を赦していただいたと、感謝と喜びしかないダビデらしい賛歌であると思います。

詩は、冒頭で **わたしの魂よ、主をたたえよ。(1)** と、一人の人間としての「主への賛美」を述べられています。魂、**わたしの内にあるものはこぞって** と自分自身を注ぎだして、賛美しています。

詩の最後には、**御使いたちよ、主をたたえよ(20)**、**主の万軍よ、主をたたえよ(21)** と、再び「主への賛美」が述べられています。

**御使いたち** とは、主の語られる声を聞き／御言葉を成し遂げるものよ／力ある勇士たちよ。とありますように、預言者、祭司、宣教者たちを指しています。彼らは **力ある勇士たち** と、褒め称えられています。また、**主の万軍** とは **御もとに仕え、御旨を果たすもの** とありますから、神に仕え、働くイスラエルのすべての民、しかも男性を指しているのでしょう。王、預言者、民すべてが一体となって「主への賛美」を捧げる歌となっています。

中心部分では主の業を賛美していますが、業そのものが神の姿の特性を示しています。

- (1) 罪を赦す **主はお前の罪をことごとく赦し(3)**、
- (2) 死から救う **命を墓から贖い出して(4)**、
- (3) 虐げられている者のために裁く **虐げられている人のために／恵みの御業と裁きを行われる(6)**、
- (4) モーセを指導者に **主は御自分の道をモーセに／御業をイスラエルの子らに示された(7)**、
- (5) 父のように子を憐れみ、慈しむ **主は憐れみ深く(8)**、父がその子を憐れむように／**主は主を畏れる人を憐れんでくださる(13)**、**主の慈しみは世々としえに／主を畏れる人の上にあり(17)**、
- (6) 永遠の罰はない **永久に責めることはなく／としえに怒り続けられることはない(9)**、
- (7) 塵から人を創造された **主はわたしたちを／どのように造るべきか知っておられた。わたしたちが塵にすぎないことを(14)**、
- (8) すべてを統治される **主は天に御座を固く据え／主権をもってすべてを統治される(19)** 等です。一言でいえば愛の神です。主の慈しみは **主を畏れる人、主の契約を守る人／命令を心に留めて行う人に及ぶ。(17-18)** としています。信仰者として主の前に立つ者を神は祝福されると言います。

最後に **主に造られたものはすべて、主をたたえよ／主の統治されるところの、どこにあっても。わたしの魂よ、主をたたえよ。(22)** と賛美で締めくくっています。

『讚美歌 21』は関連する讚美歌として 6 曲をあげていますが、詩編歌とされているのは 149「わがたま たたえよ」です。 <https://sanbika.blog.ss-blog.jp/2010-06-29>

ジュネーブ詩編歌はオルガンとクルムホルン(先の曲がった管でできている中世の管楽器)による重奏です。ジュネーブ詩編歌より少し古いストラスブール教会歌集から採用したとのことです。

<https://www.youtube.com/watch?v=k0sARYRIFNo&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=103>